

「親子で考える人権学習」

～2年生の学習を振り返って～



「そんな言い方は、ちよつと偉そうに言ってるからあかんと思う」「こんな時、どう言えばいいのかな」。

摩 気小学校での親子人権学習の中の2年生の児童の発言です。

摩気小学校では、いつも自分自身と友達や周りの人たちを大切にすることを「やさしい子」を『めざす児童像』の一つに掲げています。春には全校で摩気小学校の人権目標を決め、毎学期人権旬間を設けて自分自身を振り返る大切な機会として位置付けています。



3学期には、全学年、親子で人権について考える機会として保護者参加型の人権学習の授業を行っています。2年生では、言葉の使い方、言い方について親子で考える授業を行いました。いろいろな日常の場面でこんな時にはどう言えばいいのかを考えました。

遊

びの仲間に入れてもらう時の場面を想定しました。「なあなあ、入れて」「一緒に遊ぼう」と口調の優しさで表現する児童に對して、お家の方は、「一緒に遊びたいから、入れてくれへん」と口調の優しさだけでなく言葉で気持ちを表しておられました。

確

かに口調の優しさはとても大切ですが、自分の思っていることが相手に伝わらないこともよくあります。お家の方と一緒に考えることで、相手の気持ちも言葉でうまく表現する大切さを学ぶことができました。



「心と心を つなぐ大切な言葉」について、親子でじっくり確かめ合うことができました。本校は「毎日 が人権の日」。かけがえのない一人一人の人権をこれからも大切にできる児童を育てていきます。

(摩気小学校 人権教育主任

尾坂 志保)

環・境・市・民

感激!

エコ発見



エコちゃん 第24回

南丹市環境基本計画の具体的な取り組みを企画、推進する「南丹市環境パートナーシップ会議」が発足しました。(詳細は、今号の行政トピックス参照)今回はその委員の方に応募の動機や抱負を聞いてみました。

中村 新さん(八木町船枝)



「以前から自然環境には興味があり、地域と関わり

ながら生活したいと思っていました。南丹市には素晴らしい自然環境があります。それらをまちづくりに生かす仕組みと住民の意識によって、まちはもつと良くなると思います。私は有機農業に携わっているの、農業を切り口に活動したいと思います。八木バ イオエコロジーセンターの有

効活用や技術開発にも貢献したいと思います。また、都会の人に田舎体験などを通して南丹市の自然の良さを知ってもらい、農業や林業を営む人々の喜びと苦労も全て分かち合えるような深い交流がしたいと思います」。

黒川 正子さん(日吉町胡麻)



「手入れの行き届かないところにごみのポイ捨てや

不法投棄を見掛けます。ごみを捨てる気持ちを起こさせない美しい環境づくりをするこ とで不法投棄が減ると思います。一人では何もできないけれど、仲間がいればみんなで考えを出し合ってやっていけると思いました。南丹市には美しい景観が多くあります。それを生かした新しい発想で若い人が住みたくなるまちづくりや、観光客も住民もほっと癒される環境づくりを進め、南丹市をもつと魅力的なまちにしたいです。目標は大きく持ち、身近なことをこつこつ やっていききたいと思います」。

(環境課)